

## 中学生を対象とした救命講習を実施



消  
防  
団  
概  
要

- ①都道府県名 神奈川県
- ②消防団名 横浜市港北消防団
- ③実員数 698名 [うち女性団員 85名]
- ④消防団事務局 横浜市港北消防署庶務課  
Tel 045-546-0119
- ⑤HPアドレス

[http://www.city.yokohama.jp/me/anzen/shouboudan/05\\_14.html](http://www.city.yokohama.jp/me/anzen/shouboudan/05_14.html)

活  
動  
内  
容

### <目的・経緯>

- ① 阪神淡路大震災では、6千人を超える人々が犠牲になったが、一方、近隣住民の活動などで、数万人が救出された。これは、発生時間が午前6時前で多くの人々がまだ自宅にいたことも幸いした。しかし、地震が昼間に発生した場合を想定すると、地域で救出救護活動ができる者は限られる。
- ② 一方、港北区の65歳以上の高齢者は約5万人で、市内で2番目に多い行政区となっているほか、日産スタジアムや横浜アリーナといった大規模集客施設、新横浜駅を中心としたビジネス街があり、地震発生時の救出救護、帰宅困難者対策などが課題となっている。
- ③ そこで、学校へのAEDの配置が進んだことを契機に、中学生は身体的にも知識的にも成人に近いこと、日中も区内で生活していることに着目し、中学生を対象とした普通救命講習を行い、災害発生時の救命率向上をめざすとともに、講習会を通じて救急・救命に関する知識や技術を習得することにより、命の大切さを学んでもらうこととした。

### <活動内容>

横浜市港北消防団では、「応急手当指導員」の資格を持った65人を含む85人の女性消防団員が中核となり、平成18年度から港北区内の中学校に出向き、3年生を中心に心肺蘇生法(CPR)と自動体外式除細動器(AED)の使用方法を学習してもらうための普通救命講習を開催している。

| 年 度       | 18年度  | 19年度  | 20年度  | 21年度  |
|-----------|-------|-------|-------|-------|
| 対象中学校数    | 8     | 9     | 9     | 12    |
| 受講生徒数     | 1,320 | 1,511 | 1,537 | 1,800 |
| 出動団員数(延べ) | 175   | 275   | 249   | 300   |

活動内容



中学校での講習の様子

写真提供：横浜市港北消防署

<効果>

- ① 救命講習を受講した中学生が、地域の防災訓練にも積極的に参加し、地域住民に対する応急手当やAEDの取扱いなどで補助役として活躍している。
- ② 区内の中学生に対する救命講習を今後も継続することで、やがては、区内の多くの住民が救命技術を習得することにつながり、これらの取組が全国的に広がることで、飛躍的な防災力の向上が期待できる。
- ③ 全国的に消防団員の確保や活性化が課題となっているなかで、これらの活動が問題解決のヒントとなる。

特記事項

<問題・課題>

- ① 学校カリキュラムへの組み込みが必要なことから、学校間に意識の差があったため、先ず市教育委員会に協力依頼を行い、区内の校長会で説明し、対象中学校を増やしていった。
- ② 普通救命講習修了証に氏名を記載することから、学校外への個人情報の提供に保護者の承諾が必要なことなど、中学校教職員の業務が増えた。
- ③ 先ず指導者となるための「応急手当指導員」の資格を取得するためには、23時間の研修を受講することが必要なことから、女性消防団員への新たな負担となった。
- ④ 対象中学校数が増えて受講生徒数も増加するとともに、指導者である消防団員も大幅に出動回数が増加した。

<今後の方針>

昨年度の普通救命講習は、港北区内の公立中学校9校全ての中学3年生を中心に実施し、本年度は、区内に3校ある私立中学校も参加し、全12校で実施する。